

埼玉県美里町（国内7例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和3年12月7日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境等

- ① 当該農場は、丘陵地が平野に移行する場所に位置し周囲は田畑や人家に囲まれている。ため池や小河川が周辺各所に存在し、農場の西側と南側も幅約10mの河川となっていた。
- ② 当該農場は採卵鶏をケージ飼いしており、敷地内には、開放鶏舎4棟、飼料庫があった。また、休憩・着替え等に使用する事務所があった。敷地は狭小な公道や雑木林により3区域に分かれており、鶏舎2棟と飼料庫は同じ区域にあった。なお、農場内でネコを複数頭飼育しているとのこと。
- ③ 農場に隣接する河川には約20羽のコガモのほか、ダイサギ、アオサギ、セキレイ類が認められた。また、50羽以上のスズメの群れが農場と河川を行き来していた。周囲にため池は多いが、農場から200mのため池にハシビロガモ1羽が、1.7kmのため池にコガモ14羽を含む計18羽のカモ類が認められたのみで、生息が認められなかった池も多かった。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、12月6日、発生鶏舎の側面入口から反対壁側のケージでまとまって死亡した鶏を確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。また、約1週間前から当該ケージ付近での餌食いが悪いと感じていたとのこと。

3 飼養管理者及び従業員

- ① 当該農場の従業員は3人（農場主を含む。）であり、飼養管理は主に農場主が行っていた。各従業員の作業内容は分かれているものの鶏舎ごとの担当割りではないとのこと。
- ② 系列農場等ではなく、単独で営農しており、従業員も専属であった。卵は、液卵業者に出荷する他、自ら洗浄・包装して、近くの直売所に卸しているとのこと。また、近所の人等にも直接販売しているとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 公道からの入口には、立て看板や境界を仕切るものは設置されておらず、衛生管理区域は明確ではなかった。
- ② 農場に入る際の車両消毒用の動力噴霧器、訪問者用の長靴、運転席フロアマット、来場者記録簿も備えられていなかった。
- ③ 飼料業者、電気会社等の外部訪問者が入場する際も、車両の消毒等の措置は実施していないとのこと。ただし、動物用医薬品業者及び液卵業者は、自ら持参した動力噴霧器でタイヤ回りを消毒しているとのこと。
- ④ 農場主は出勤後、事務所で農場用の作業着と長靴を着用するとのこと。従業員の中には出勤時の衣服や靴で作業を行う者もいるとのこと。鶏舎への立入りに際して従業員の一部は鶏舎毎の長靴を着用していたが、更衣や手指の消毒は実施していないとのこと。一部の鶏舎入口には、靴底消毒槽を設置していることがあるとのことだが、あまり使用していないとのこと。
- ⑤ 公道からの入口付近に石灰帯を作ることもあるとのことだが、各鶏舎の周囲に消石灰を散布することはないとのこと。
- ⑥ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。

- ⑦ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は、1鶏舎は水道水、発生鶏舎を含む他の3鶏舎には井戸水を使用していたが、夏場など井戸水が不足する時期は農業用水を未消毒で使用していた。
- ⑧ 飼養管理者によると、各鶏舎には日齢の異なる複数ロットが飼育されていることから、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトは行っていないとのこと。
- ⑨ 鶏糞は、毎日、機械で鶏舎から掻き出し、たい肥化せずに離れた所にある自己所有の土地に撒いて、土と混ぜているとのこと。発生農場の直近の鶏糞搬出は2日前であった。
- ⑩ 飼料庫から各鶏舎に飼料を運搬する際に使用する車両、鶏糞の運搬に用いるダンプカー、各鶏舎から農場内の集卵室までの卵の運搬及び直売所に運ぶために用いる車両についても消毒等は実施していないとのこと。
- ⑪ 飼養管理者によると、毎日1回の給餌に合わせて健康観察及び死亡鶏の回収を行っているとのこと。死亡鶏は、鶏舎外に集めた後に上からビニールシート等で被覆し蔵置し、時々、搬出した鶏糞に混入させて離れた所にある自己所有の土地に撒いているとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によれば、農場敷地内でスズメ、ハト等は日常的に見かけるとのこと。また、鶏舎内でスズメを目撃することもあるとのこと。調査時にも敷地内および発生鶏舎とは異なる鶏舎内でスズメ等を確認した。
- ② 飼養管理者によると、アライグマが鶏舎内に入り込み、飼養鶏が被害を受けることがあるとのこと。他にも、タヌキ、アナグマ、キツネを場内で目撃することがあるとのこと。また、飼育猫以外の野良ネコが付近に住み着いており、調査時にも農場敷地内で3匹確認した。
- ③ 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあり、一部の鶏舎では自ら殺鼠剤を設置しているとのこと。猫がネズミを捕獲することもあるとのこと。
- ④ 発生鶏舎の側面はカーテン及び金網によって外界と隔てられていたが、多数の破損個所が認められ、小型・中型野生動物が侵入可能と考えられた。天井部分も複数の破損が認められ、野鳥の侵入も可能であると考えられた。